

# 日本共産党 日立市議団ニュース

No. 36 2004年7月1日

発行 日本共産党日立市議団

連絡先 日本共産党北部地区委員会

日立市石名坂町 1525-21/ (53)8501



小林真美子  
(21)4919



大曾根勝正  
(52)1570

ご相談はお気軽にどうぞ

## 存続求める市民の願いに背を向け、

「第3セクター設置は困難。代替バス運行を検討」 - - 日立市

6月定例会市議会中に開かれた総務委員協議会において、市は、存続のための第3セクター設置は困難多いとして、電鉄線廃止を容認し、代替バスを来年4月1日からスタートさせるため、日立電鉄株式会社と4回、(株)日立電鉄バスと1回話し合いを持ったことを報告しました。

代替バス運行を検討するにあたり、市の基本的考え方について、既存のバス路線は原則として現状のまま維持 利用者の状況に対応したルート、ダイヤに高校生等通学用登下校バスを 常陸太田市・日立市間で直行便（朝の定時制確保のため） 病院等経由する路線を昼間ダイヤに その他、利用者の利便性向上につながる事項についての検討をおこなうとしています。

市は、7時台の交通渋滞について、4日間走行実験をし、今のところ問題はないと見ているとしています。しかし、県の試算では、7時台の電鉄線乗客を1台30名乗ったバスに置き換えてみると、上り20本（3分間隔）下り16本（3分45秒間隔）合計で36本（1分40秒間隔）のバス運行が必要と見込んでいます。これに見合うバス車両や運転手等の投入が必要になります。バス停車帯やバスターミナルの整備も必要です。交通渋滞の激化は必至です。もし、乗客が全員バスに移行しない場合は深刻です。目的地に向かう自家用車やタクシーが渋滞をひきおこす範囲を拡大することになります。

鉄道の廃止を届出でおこなえるように国が規制緩和したことで、事業者は採算性の判断で廃止できる状況です。しかし、地域にとって、公共交通の形が変わることは、ひとびとの暮らし方の変更を余儀なくさせるもので、そのことが及ぼす影響は、交通弱者の足を危うくするばかりでなく、環境問題、さらには地域の盛衰にまで及ぶのではないのでしょうか。5ヶ月という短期間で結論をだすべきではありません。

小林市議は委員協議会で、バス代替の検討にはいっても、日立電鉄線存続の検討も並行しておこなうよう要望しました。

日本共産党北部地区委員会ホームページは <http://www.jcp-net.jp/ibahoku> です。  
「日立市議団ニュース」のバックナンバーもご覧いただけます。  
ご意見、ご感想をお寄せ下さい。